

### 3 尾張中西部・海部地区

（一宮市、稲沢市、清須市、北名古屋市、豊山町、津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村）

#### 【地区の概況】

名古屋市の北西部に位置する尾張中西部・海部地区は、地区北部の一宮市を中心に地場産業である繊維産業により発展してきましたが、近年は、名古屋駅への利便性の高さから名古屋市のベッドタウンとしての性格を有しています。

県営名古屋空港周辺や臨海部では、航空宇宙産業が集積しているほか、南部の海部地区は、豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた県内有数の農業地帯でもあります。

また、この地区は、尾張津島天王祭、須成祭、国府宮はだか祭などの伝統的な祭りや、七宝焼などの伝統的工芸品をはじめ、特色ある歴史・文化を有する地区でもあります。

一方、海部地区を中心に広がる日本最大のゼロメートル地帯では、南海トラフ地震への対応が課題となっており、防災活動拠点の整備が進められています。



項目	数値	県内シェア
人口（2022年）	1,000,524人	13.3%
面積（2020年）	443.54 km <sup>2</sup>	8.6%
人口密度	2,255.8人/km <sup>2</sup>	—
農業（2020年）	308億円	10.7%
工業（2019年）	29,437億円	6.1%
商業（2015年） ※卸売業を除く	9,408億円	11.1%

## 1 人口

尾張中西部・海部地区の2020年の人口は1,009,408人（2010年比100.1%）、県内シェアは13.4%となっています。

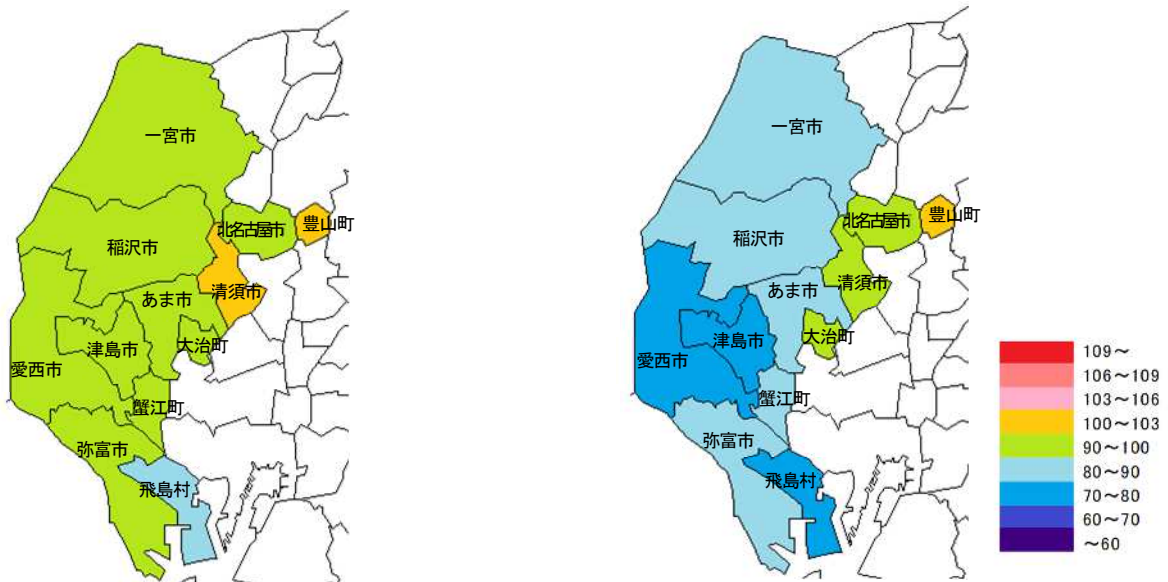
国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2045年の地区内の人口は888,084人（2020年比88.0%）に減少することが見込まれています。市町村別に見ると、尾張中部の豊山町（2020年比102.2%）、清須市（同年比98.1%）、北名古屋市（同年比95.4%）では、人口増加若しくは緩やかな人口減少が見込まれる一方、愛西市（同年比71.1%）、飛島村（同年比71.7%）等は人口が大きく減少すると見込まれています。

また、2045年時点の高齢化率は、2020年比で+8.1ポイントとなっており、県平均（+7.7ポイント）より増加幅が大きく、特に飛島村（+11.7ポイント）、津島市（+14.4ポイント）等で大幅な上昇が見込まれています。一方で、清須市、北名古屋市、豊山町等では、高齢化率が県平均より増加幅が小さくなっています。

### ■総人口の推移

◇2025年（2020年を100とした比較）

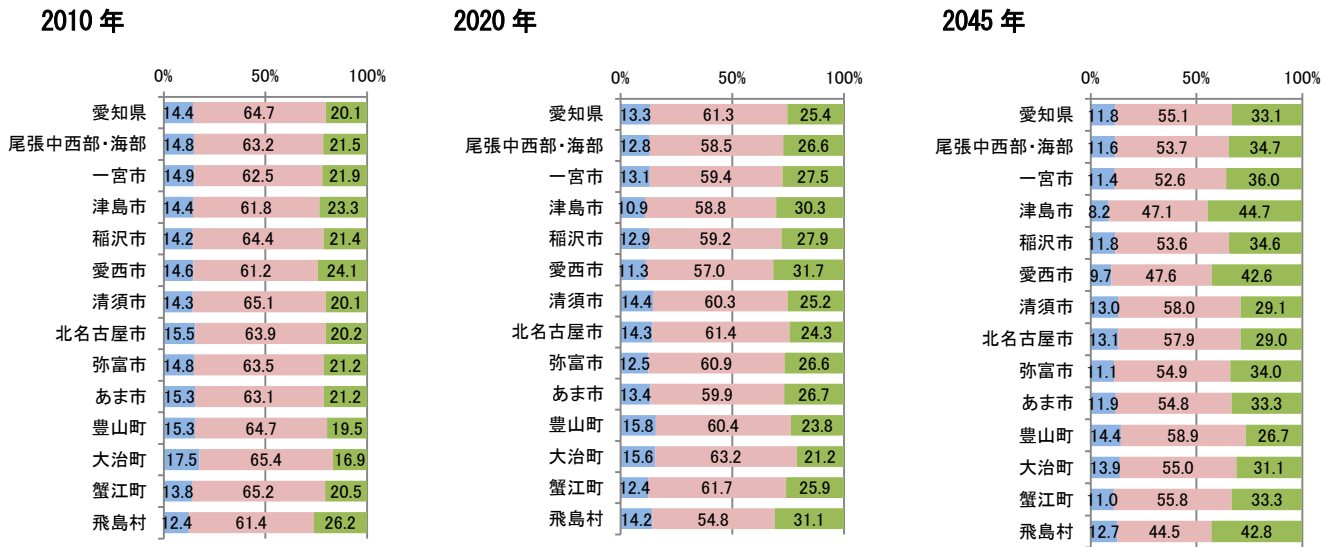
◇2045年（2020年を100とした比較）



	総人口（人）					増減率	
	2010年	2015年	2020年	2025年	2045年	2020年→2025年	2020年→2045年
愛知県	7,410,719	7,483,128	7,542,415	7,455,615	6,899,465	98.8%	91.5%
尾張中西部・海部	1,008,067	1,013,530	1,009,408	991,841	888,084	98.3%	88.0%
一宮市	378,566	380,868	380,073	373,817	337,017	98.4%	88.7%
津島市	65,258	63,431	60,942	58,043	44,944	95.2%	73.7%
稲沢市	136,442	136,867	134,751	134,253	121,204	99.6%	89.9%
愛西市	64,978	63,088	60,829	57,046	43,272	93.8%	71.1%
清須市	65,757	67,327	67,352	68,596	66,080	101.8%	98.1%
北名古屋市	81,571	84,133	86,385	86,000	82,403	99.6%	95.4%
弥富市	43,272	43,269	43,025	42,209	37,610	98.1%	87.4%
あま市	86,714	86,898	86,126	83,846	73,587	97.4%	85.4%
豊山町	14,405	15,177	15,613	16,033	15,962	102.7%	102.2%
大治町	29,891	30,990	32,399	31,619	30,161	97.6%	93.1%
蟹江町	36,688	37,085	37,338	36,280	32,566	97.2%	87.2%
飛島村	4,525	4,397	4,575	4,099	3,278	89.6%	71.7%

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

■年齢三区分別人口割合



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

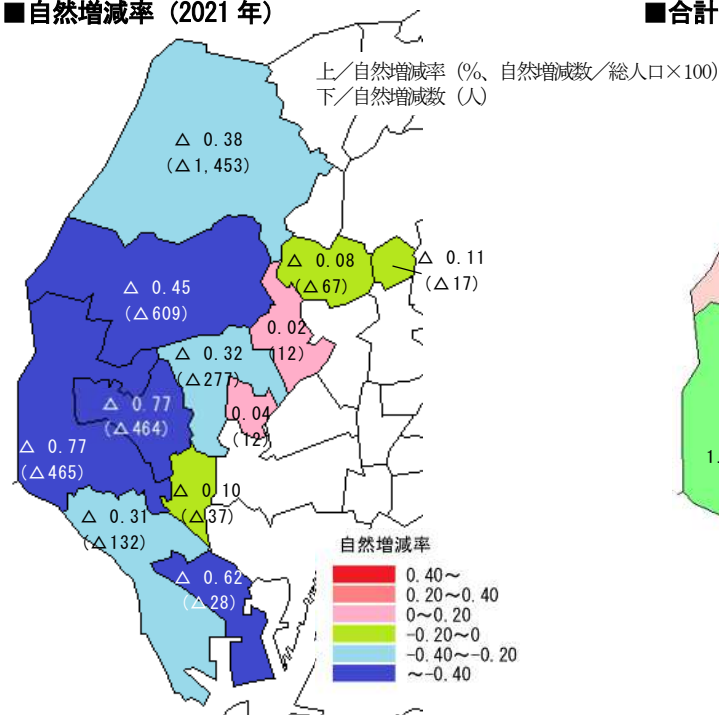
■年少人口 ■生産年齢人口 ■老年人口

2 自然増減

尾張中西部・海部地区の2021年の自然増減数は3,525人（-0.35%）の減少となっています。市町村別に見ると、津島市（-0.77%）、愛西市（-0.77%）で減少幅が大きくなっている一方、清須市（+0.02%）、大治町（+0.04%）ではわずかに増加しています。

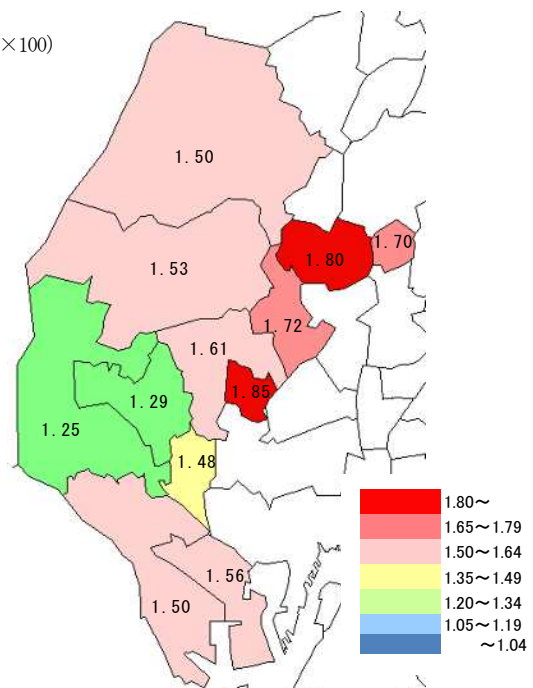
また、合計特殊出生率（2013～2017年）を市町村別に見ると、大治町（1.85）、北名古屋市（1.80）で高く、愛西市（1.25）、津島市（1.29）で低くなっています。

■自然増減率（2021年）



出典：厚生労働省「人口動態統計」（2021年）、愛知県「あいちの人口」（2021年）から愛知県政策企画局作成

■合計特殊出生率（2013～2017年）



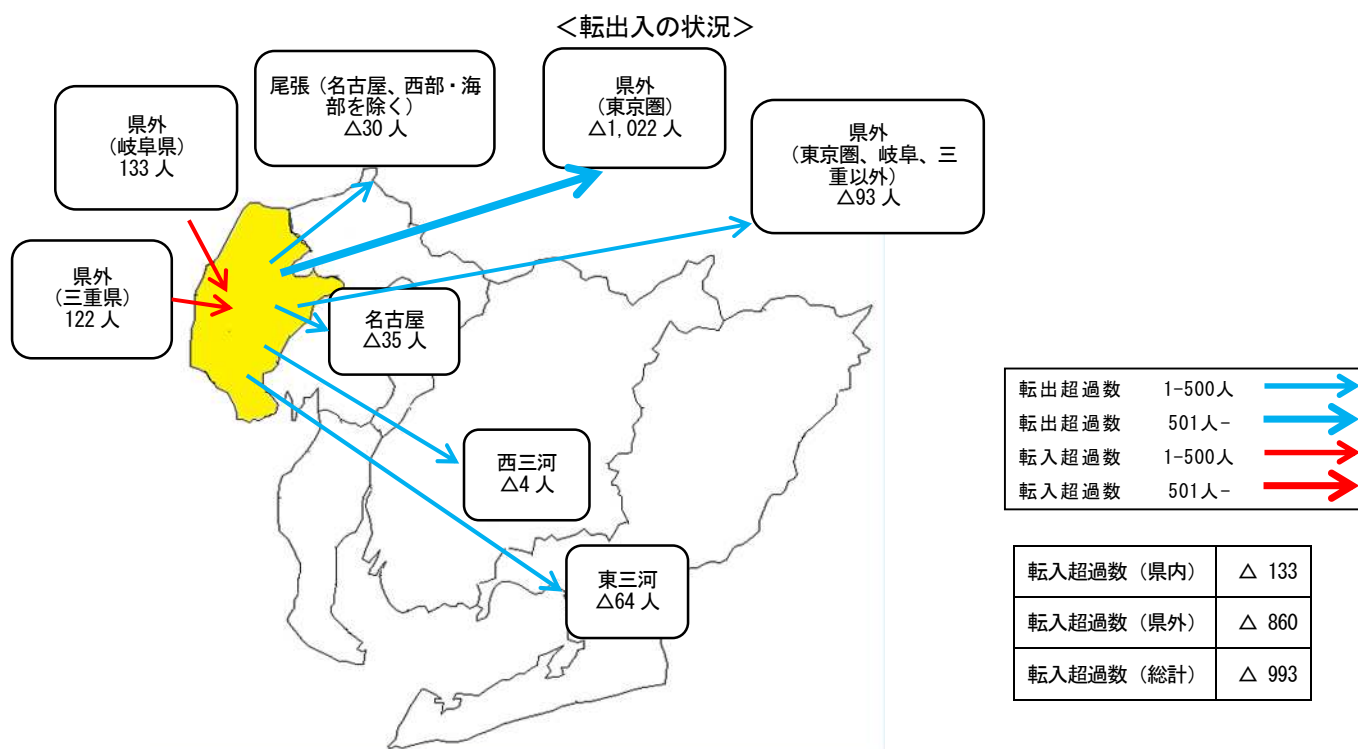
出典：厚生労働省「2013～2017年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」

### 3 転出入の状況

尾張中西部・海部地区の2021年の転出入は、993人の転出超過となっています。岐阜県、三重県に対して転入超過となっている一方、このほかの地域に対しては、県内外ともに、転出超過となっています。

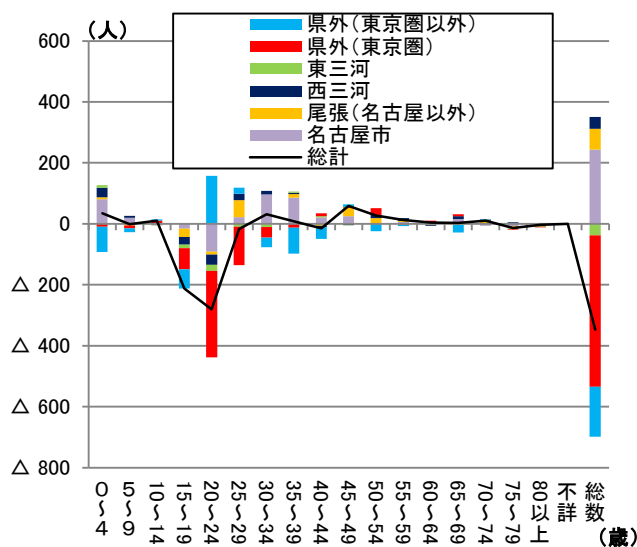
男女別に見ると、男性は、15～24歳が転出超過となる一方で、45～74歳で転入超過であるのに対し、女性は、15～44歳で転出超過となっています。

#### ■転出入の状況（2021年）

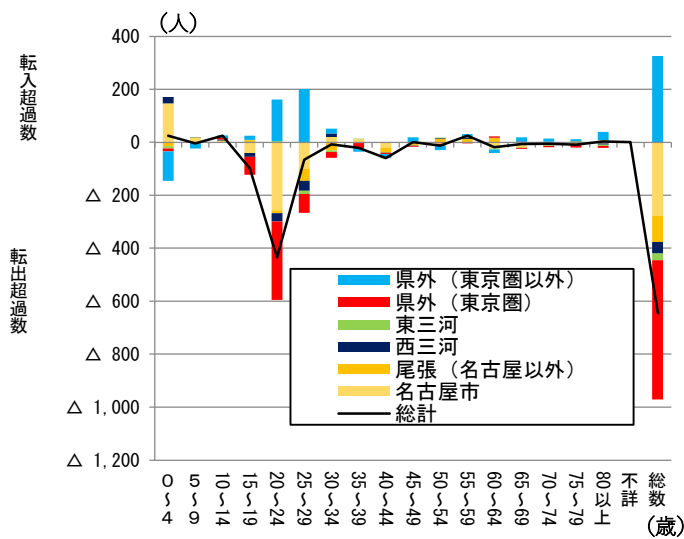


＜5歳階級別純移動数＞

男性



女性



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2021年）





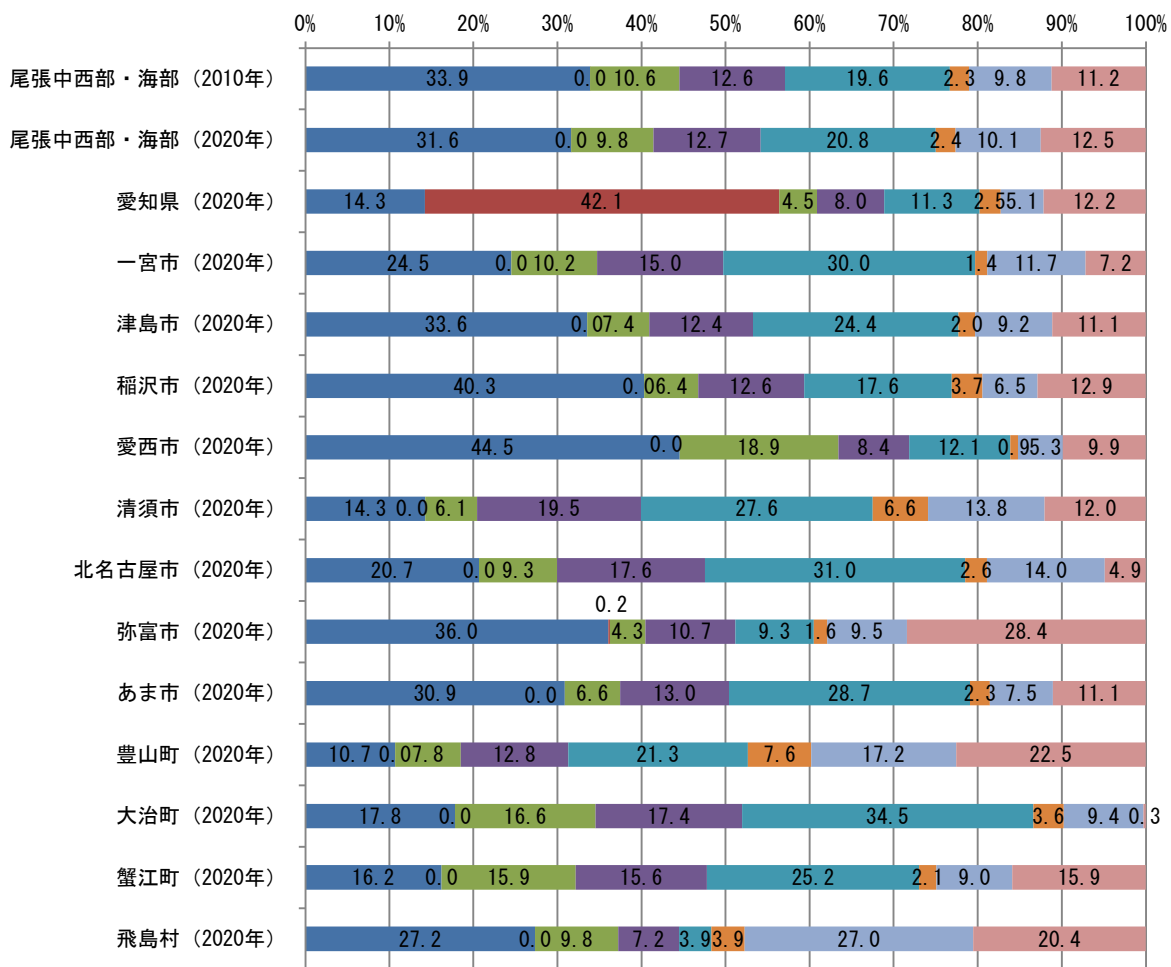
## 5 土地利用

尾張中西部・海部地区の2020年の地目別土地利用状況を見ると、農地31.6%、宅地33.3%、道路12.7%等となっています。宅地の内訳は、住宅地が20.8%、工業用地が2.4%、その他の宅地（商業・業務用地等）が10.1%となっています。

県全体と比較すると、農地（+17.3ポイント）、住宅地（+9.5ポイント）の割合が高くなっています。また、2010年と比較すると、水面・河川・水路（-0.8ポイント）、農地（-2.3ポイント）が減少する一方で、住宅地（+1.2ポイント）等が増加しています。

市町村別に見ると、大治町は、住宅地の割合が34.5%と高くなっています。また、津島市、稲沢市、愛西市、弥富市、あま市では、農地の割合が30%を超えています。

### ■土地利用状況



■農地 ■森林 ■水面・河川・水路 ■道路 ■宅地（住宅地） ■宅地（工業用地） ■宅地（その他の宅地） ■その他

※宅地は住宅地、工業用地、その他の宅地の合計。端数処理の関係上、合計が100にならない場合がある。

出典：愛知県「土地に関する統計年報」

## 6 産業

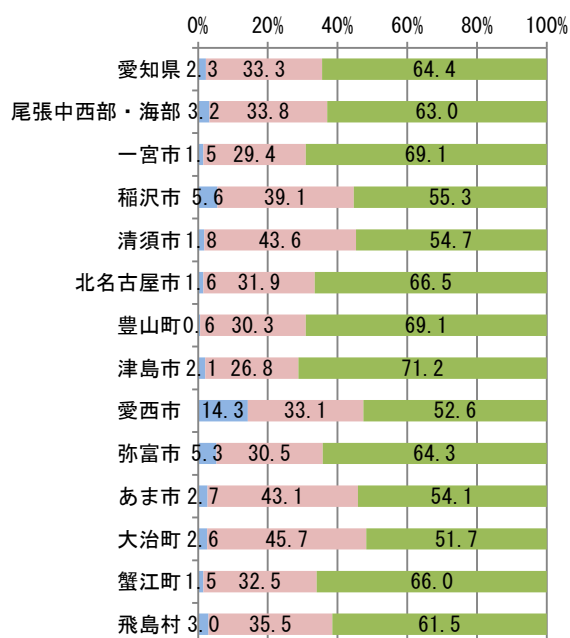
### （1）就業構造

尾張中西部・海部地区の2020年の就業構造を見ると、第1次産業従事者比率が2.1%（県：2.0%）、第2次産業従事者比率が29.9%（県：32.4%）、第3次産業従事者比率が68.1%（県：65.6%）であり、県平均と概ね同様の就業構造を有しています。2010年と比較すると、第1次産業従事者比率（-1.1ポイント）、第2次産業従事者比率（-3.9ポイント）の割合が低下し、第3次産業従事者比率（+5.1ポイント）が増加しています。

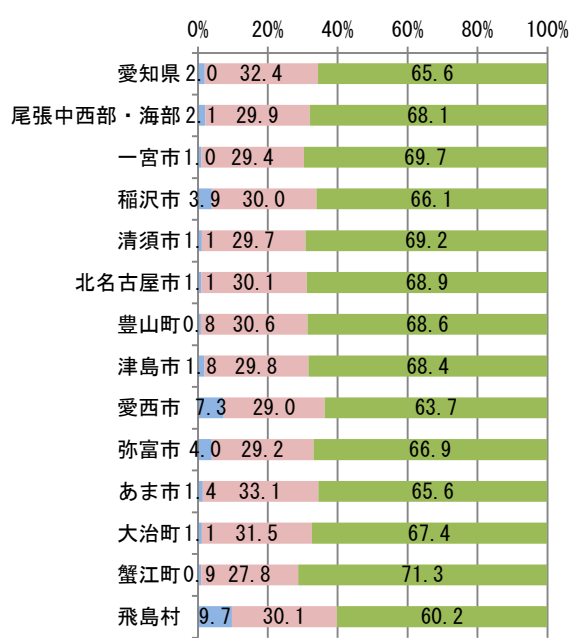
市町村別に見ると、第1次産業従事者は、飛島村(9.7%)、愛西市(7.3%)、弥富市(4.0%)などで地区平均よりも高くなっています。また、第3次産業従事者比率は、蟹江町(71.3%)、一宮市(69.7%)、清須市(69.2%)などで高くなっています。

### ■産業別就業者割合

2010年



2020年



※端数処理のため計が100とならない場合がある。  
出典：総務省「国勢調査」

■第1次産業比率 ■第2次産業比率 ■第3次産業比率

### （2）農林水産業

尾張中西部・海部地区の2020年の農業産出額は307.7億円であり、県内シェアは10.6%となっています。農業部門別では、野菜141.4億円、米74.2億円、花き26.4億円などが多くなっています。

市町村別に見ると、愛西市が112.3億円で最も多く、次いで稲沢市72.2億円、一宮市39.0億円となっています。

■農業産出額（2020年）

地域	農業産出額	内訳（上位3位）		
		野菜	米	花き
尾張中西部・海部	307.7	141.4	74.2	26.4
一宮市	39.0	14.8	14.0	5.2
稲沢市	72.2	18.3	18.2	17.4
清須市	5.2	3.5	0.8	0
北名古屋	4.3	2.4	1.7	0.1
豊山町	0.6	0.5	0.1	0
津島市	12.8	6.2	4.2	0.2

（億円）

地域	農業産出額	内訳（上位3位）		
		野菜	米	乳用牛
愛西市	112.3	74.7	16.0	2.6
弥富市	26.6	11.6	10.2	3.0
あま市	12.6	5.4	5.3	1.8
大治町	3.4	2.6	0.6	0.2
蟹江町	6.7	1.4	0.2	0.1
飛島村	12.0	5.9	3.8	1.1

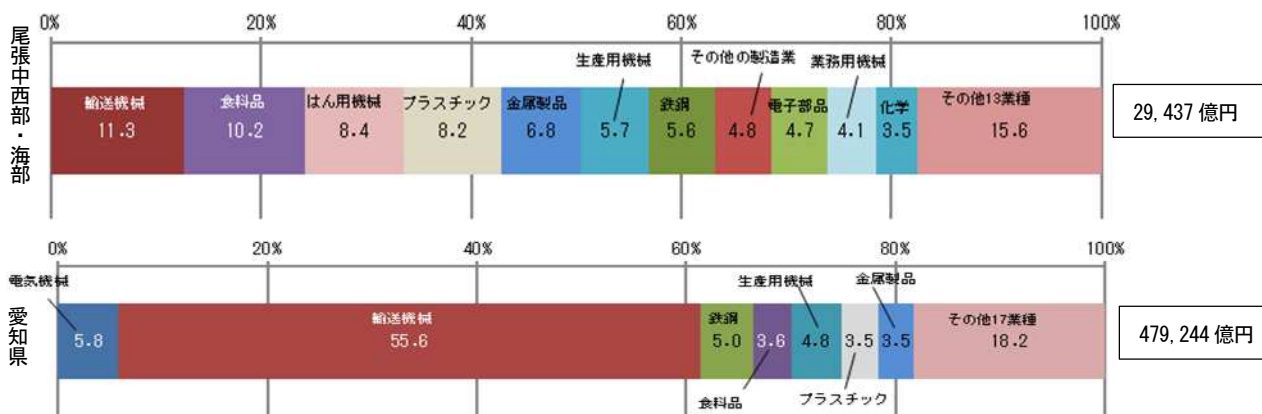
出典：農林水産省「令和2年市町村別農業産出額（推計）  
（農林業センサ結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果）」

（3）製造業

尾張中西部・海部地区の2019年の製造品出荷額等は2兆9,437億円であり、県内シェアは6.1%となっています。産業中分類別の構成比を見ると、輸送機械が11.3%、食料品が10.2%、はん用機械が8.4%などとなっており、県全体と比較して、多様な業種構成となっています。

市町村別に見ると、稲沢市が7,945億円で最も多く、次いで、一宮市が5,507億円、清須市が2,712億円となっています。

■製造品出荷額等の産業中分類別構成比（2019年）



出典：経済産業省「工業統計調査」（2020年）

■市町村別製造品出荷額等（2019年）

地域	製造品出荷額等（億円）	従業者数（人）	事業所数（事業所）
愛知県	479,244	848,565	15,063
尾張中西部・海部	29,437	87,072	2,350
一宮市	5,507	21,769	728
稲沢市	7,945	19,342	289
清須市	2,712	7,533	186
北名古屋	1,818	6,054	184
豊山町	1,596	4,710	44
津島市	1,136	4,527	149
愛西市	978	4,285	161
弥富市	2,300	4,859	142
あま市	1,507	5,999	237
大治町	749	2,081	58
蟹江町	805	2,867	77
飛島村	2,385	3,046	95

出典：経済産業省「工業統計調査」（2020年）



#### （4）商業

尾張中西部・海部地区の2015年の小売業販売額は9,408億円であり、県内シェアは11.1%となっています。また、顧客吸引力指数<sup>\*</sup>は0.82となっています。

市町村別に見ると、小売業販売額は、一宮市が3,645億円、次いで稲沢市が1,366億円と多くなっています。また、顧客吸引力指数は、豊山町（3.03）、津島市（1.01）、蟹江町（1.01）が1.00を超えています。

■小売業販売額（2015年）

	（億円）	
	小売業販売額	顧客吸引力指数
尾張中西部・海部	9,408	0.82
一宮市	3,645	0.85
稲沢市	1,366	0.89
清須市	532	0.70
北名古屋	750	0.78
豊山町	525	3.03
津島市	719	1.01
愛西市	372	0.53
弥富市	464	0.95
あま市	398	0.41
大治町	213	0.60
蟹江町	426	1.01
飛島村	-	-

※顧客吸引力指数：各市町村の人口1人当たりの小売業販売額を県の1人当たりの小売業販売額で除したもの。指数が1.00以上の場合は、買物客を外部から引き付け、1.00未満の場合は、外部に流出していることを示す。

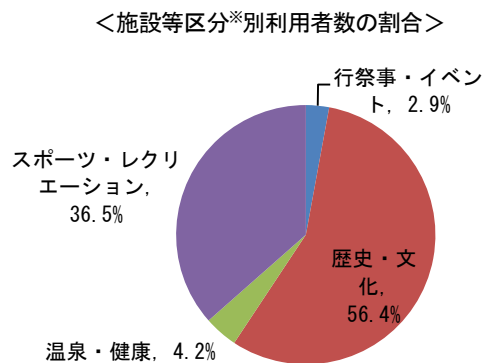
出典：経済産業省「商業統計」（2016年）、愛知県「あいちの人口」（2016年）から愛知県政策企画局作成

#### 7 観光

尾張中西部・海部地区の2021年の観光資源利用者数を区分別に見ると、「歴史・文化」が56.4%で最も割合が多く、次いで「スポーツ・レクリエーション」が36.5%となっています。利用者数上位の観光資源は、国営木曽三川公園138タワーパーク（年間1,241,168人：一宮市）、真清田神社（年間1,046,928人：一宮市）、尾張大國霊神社（国府宮）（年間974,993人：稲沢市）などとなっています。

また、当地区は、津島神社、善光寺東海別院などの神社・仏閣、尾張津島天王祭、須成祭、国府宮はだか祭、一宮七夕まつりなどの行祭事など、歴史や伝統のある多くの観光資源を有しています。

■観光レクリエーション利用者統計（2021年）



＜観光資源（利用者数上位10位）＞（人）

	観光資源名	市町村	利用者数
1	国営木曽三川公園138タワーパーク	一宮市	1,241,168
2	真清田神社	一宮市	1,046,928
3	尾張大國霊神社(国府宮)	稲沢市	974,993
4	津島神社	津島市	957,920
5	海南こどもの国	弥富市	460,550
6	サリオパーク祖父江	稲沢市	391,610
7	エコハウス138	一宮市	252,686
8	尾張温泉東海センター	蟹江町	239,619
9	善光寺東海別院	稲沢市	206,500
10	あいち航空ミュージアム	豊山町	124,444

出典：愛知県「観光レクリエーション利用者統計」（2021年）

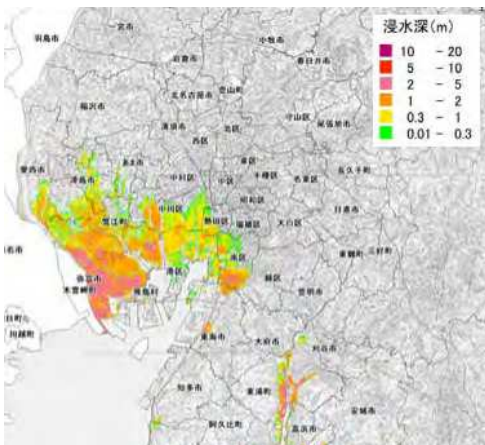
※観光庁「観光入込客統計に関する共通基準」と同様の区分

## 8 防災

尾張中西部・海部地区は、地区西部を中心に日本最大のゼロメートル地帯となっており、本県が行った南海トラフ地震の被害想定として、ゼロメートル地帯では、強い揺れや液状化による堤防等の被災を考慮すると、広い範囲が浸水するおそれがあることが指摘されており、浸水面積（浸水深1cm以上）は、弥富市（3,597ha）、愛西市（1,387ha）、飛島村（1,200ha）などで大きくなっています。

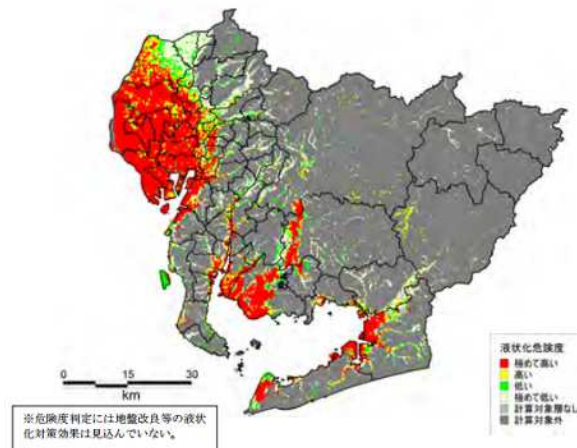
### ■津波による浸水想定域（浸水深1cm以上） （「過去地震最大モデル」による想定）

愛知県西部



市町村	浸水面積（浸水深1cm以上）	浸水面積／行政面積
津島市	662ha	26.4%
愛西市	1,387ha	20.8%
弥富市	3,597ha	73.2%
蟹江町	487ha	43.9%
飛島村	1,200ha	53.5%

### ■液状化危険度分布 （「過去地震最大モデル」による想定）



液状化危険度分布 「過去地震最大モデル」による想定

※「過去地震最大モデル」：過去に発生したことが明らかで規模の大きい宝永地震、安政東海地震、安政南海地震、昭和東南海地震、昭和南海地震の5地震を重ね合わせたモデル

出典：愛知県防災会議地震部会「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果」（2014年5月）

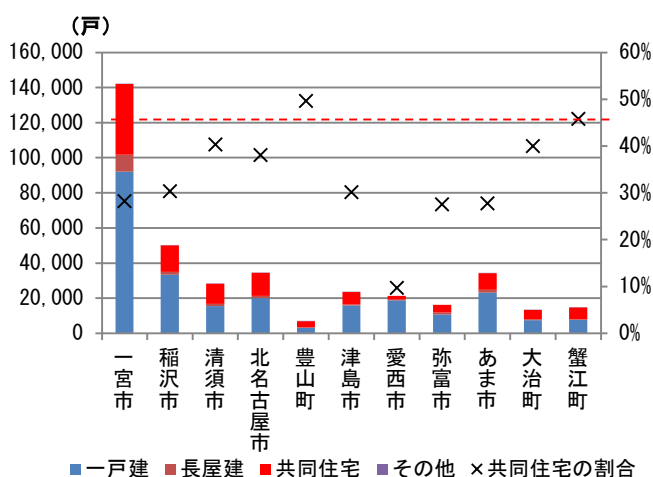
なお、「浸水想定域／行政面積」は、上記被害予測結果及び愛知県「土地に関する統計年報」（2020年）から愛知県政策企画局作成

## 9 住宅

尾張中西部・海部地区の2018年の住宅総数（居住世帯なしの住宅を除く）を市町村別（人口15,000人未満の町村を除く）に見ると、一宮市が142,150戸で最も多く、次いで稲沢市が50,270戸、北名古屋市が34,500戸となっています。また、共同住宅の住宅総数に占める割合は、豊山町（49.7%）、蟹江町（45.8%）で県平均（45.8%）以上となっています。

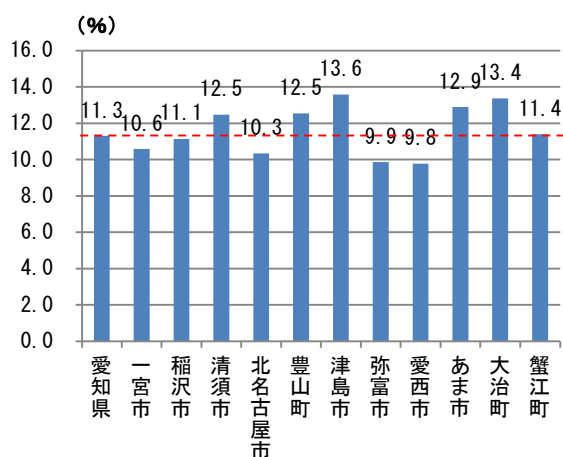
空き家率を見ると、津島市（13.6%）、大治町（13.4%）、あま市（12.9%）などで県平均（11.3%）を上回っています。

■住宅総数（2018年）



※赤線は共同住宅の割合の県平均（45.8%）

■空き家率（2018年）



※赤線は空き家率の県平均（11.3%）

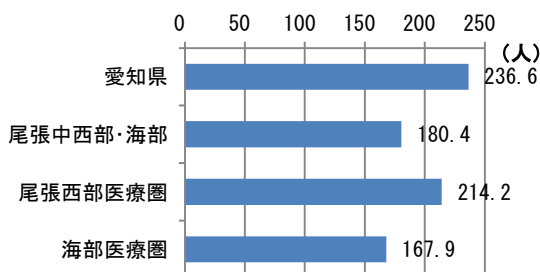
※住宅・土地統計調査では、人口 15,000 人未満の町村の調査結果が公表されていない。

出典：総務省「住宅・土地統計調査」（2018年）

## 10 医療・福祉

尾張西部・海部地区の2020年の人口10万人当たりの医師数は180.4人であり、県平均（236.6人）を下回っています。二次医療圏別に見ると、尾張西部医療圏214.2人、海部医療圏167.9となっています。

■人口10万人当たり医師数（2020年）



※尾張中部医療圏は、2018年度から名古屋医療圏と統合されており、名古屋・尾張中部医療圏として名古屋地区に記載。

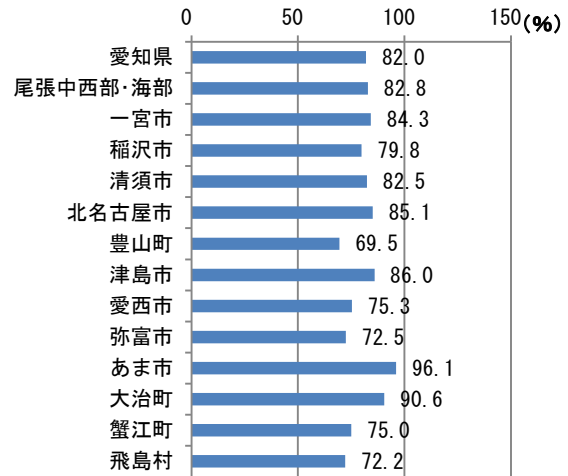
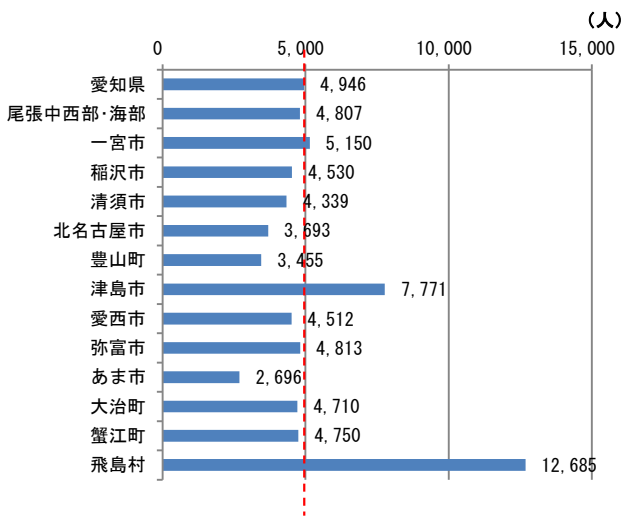
出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」（2020年）、総務省「国勢調査」（2020年）から愛知県政策企画局作成

高齢者向け施設について、2020年の65歳以上人口10万人当たりの定員数は4,807人となっており、県平均（4,946人）をわずかに下回っています。市町村別に見ると、飛島村、津島市が県平均を大きく上回る一方、あま市、豊山町などでは大きく下回っています。

また、2022年の保育所の定員充足率（利用児童数÷定員）は82.8%となっており、県平均（82.0%）をやや上回っています。

■高齢者向け施設定員数（65歳以上人口10万人当たり）（2020年）

■保育所充足率（2022年）



※赤線は県平均（4,946人/10万人）

※高齢者向け施設定員数：養護老人ホーム（一般）、（盲）、軽費老人ホーム（A型）、（B型）、（ケアハウス）、有料老人ホーム、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の定員数

出典：厚生労働省「保育所等利用待機児童数調査」（2022年）、「社会福祉施設等調査」（2020年）、「介護サービス施設・事業所調査」（2020年）、総務省「国勢調査」（2020年）から愛知県政策企画局作成

### 【尾張中西部・海部地区における県の主な取組】

当地区は、名古屋空港周辺や臨海部における工業集積に加え、県内有数の農業地帯を形成しているとともに、歴史や伝統文化を有しており、県としては航空宇宙産業などの次世代産業や地場産業の振興、農林水産業の振興のほか、地域の魅力の創造・発信に取り組んでいます。

また、県立高等学校を取り巻く環境が大きく変化する中、当地区の県立高等学校の再編に向けた取り組みを推進しています。

さらに、当地区は日本最大のゼロメートル地帯を抱えており、南海トラフ地震に備えた津波対策や治水対策に取り組んでいます。

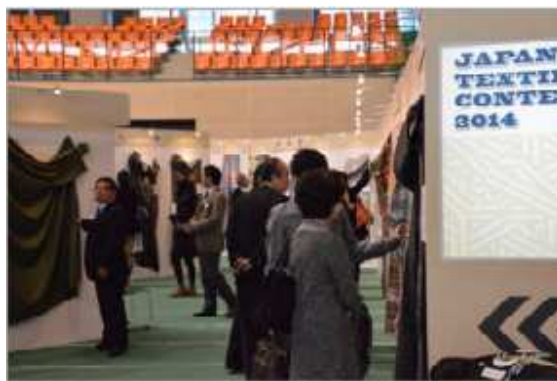
### （次世代産業の育成・地場産業の振興）

航空宇宙産業については、県営名古屋空港に、「航空機産業の情報発信」、「航空機産業をベースとした産業観光の強化」、「次代の航空機産業を担う人材育成の推進」をコンセプトとして、航空機をテーマとした見学者の受入拠点施設となる「あいち航空ミュージアム」を開設しています。

一方、地場産業である繊維産業の活性化に向けて、尾州産地春夏合同展示会やジャパン・テキスタイル・コンテストといった関係団体の実施する展示会等への出展支援による情報発信や販路開拓の支援を行っているほか、専門家派遣による若者人材確保支援、あいち産業科学技術総合センター（尾張繊維技術センター）における新技術・新製品の開発支援に取り組んでいます。



あいち航空ミュージアム



ジャパン・テキスタイル・コンテスト

### （農水産業の振興）

西部地域を中心に稲作のほか、レンコン、トマトなどの野菜の栽培も盛んに行われているなかで、スマート農業技術の導入による高収益化、省力化を図っています。

また、愛知県水産試験場弥富指導所では、伝統ある愛知県のキンギョ養殖業の振興のため、新品種の作出、疾病対策などの研究、養殖生産者向けの養殖技術指導や魚病診断に加え、一般県民向けの飼育講座や飼育相談などを行っています。



愛西市におけるレンコンの栽培

### （地域の魅力の創造・発信）

尾張津島天王祭、国府宮はだか祭といった伝統文化、七宝焼などの伝統的工芸品、木曾三川に面した水郷地帯であることなど、地域資源を生かした観光振興を図っています。

また、東海地方最大の弥生集落「朝日遺跡」を紹介するあいち朝日遺跡ミュージアムにおいて、企画展や講座・講演会の開催などを行っています。

2022年には、国際芸術祭「あいち2022」が、一宮市を会場の一つとして開催されました。本県唯一の丹下健三氏設計の墨会館や、のこぎり屋根の旧毛織工場などで作品が展示され、一宮会場に13万2千人の来場がありました。





あいち朝日遺跡ミュージアム

### （津波・治水・浸水対策の強化）

海拔ゼロメートル地帯における円滑な救出救助活動に必要な広域的な防災活動拠点として、愛西市の旧永和荘跡地における整備や弥富市の海南こどもの国における整備を推進しています。

また、国営施設機能保全事業尾張西部地区による日光川河口排水機場及び尾西排水機場の耐震・機能保全対策を進めるとともに、地域の農地や財産を守る農業用排水機場や排水路の整備に取り組んでいます。



広域防災活動拠点（木曾三川下流域Ⅰ・愛西市）



日光川水閘門の改築

### （県立高等学校の再編、特別支援学校の整備）

県では、高等学校全日課程への進学率の低下や県立高等学校における全県的な欠員の急増など、県立高等学校を取り巻く環境が大きく変化する中、県立高等学校の役割を改めて見直しながら、2030年代半ばを見据えた全県的な県立高等学校の再編将来構想を策定しています。尾張中西部・海部地域においては、稲沢高等学校・稲沢東高等学校・尾西高等学校を統合し、農業科と普通科の生徒が相互に学ぶことができ、進学から就職まで、幅広い進路ニーズを実現する、稲沢緑風館高等学校を稲沢高等学校校地に2023年に開校します。また、津島北高等学校と海翔高等学校を統合し、普通科・商業科・福祉科を併置した新たな学校を、津島北高等学校校地に2025年に開校します。

また、津島高等学校を併設型中高一貫教育の第一次導入校として決定し、国際理解コースで取り組んでいる国際交流等の取組をベースに、中学校段階から探究的な学びに取り組むこととしています。

2014年に開校したいなざわ特別支援学校の過大化による教室不足を解消するため、新たに校舎の増築を進めています。



稲沢緑風館高等学校



いなざわ特別支援学校

### （産業や暮らしを支える基盤整備）

名古屋第二環状自動車道では、2021年5月に名古屋西JCT～飛島JCTが開通し、中部国際空港や名古屋港へのアクセス道路として重要な役割を果たしています。

また、地域内交通の円滑化に向け、都市計画道路の名古屋津島線や名古屋第三環状線、伏見町線などの整備を進めるとともに、地域の主要渋滞箇所の緩和・解消を図るため、名鉄尾西線荻安賀駅付近や名鉄名古屋本線新清洲駅付近の鉄道高架化による踏切除却などの整備を進めています。

我が国屈指の国際貿易港である名古屋港については、船舶の大型化に対応した飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業により、岸壁の増深(水深12mから15mへ)や耐震化が一部完了し、引き続き岸壁整備及び泊地浚渫等を実施していきます。



名古屋第二環状自動車道（名古屋西JCT～飛島JCT）  
飛島JCT付近



名古屋港 飛島ふ頭 コンテナターミナル